

日本物理学会領域2運営会議 議事録案

日時：2024年9月17日(火) 12:20-13:00

場所：C209 会場

司会：領域2代表 長崎，参加者：約30名，書記：三瓶

報告・議論事項

- 1) 2024年10月からの役員体制・役割分担
- 2) 2025年4月からの領域代表、領域副代表の候補について
- 3) 2024 春期大会 学生優秀発表賞に関する報告
- 4) 2025 年米沢富美子記念賞 授賞候補者の募集について
- 5) 2025 年春季大会シンポジウム・招待講演等の提案
- 6) 代議員候補者推薦
- 7) 領域委員会報告
- 8) 領域2での確認事項
- 9) 講演件数の推移
- 10) 講演概要集提出率
- 11) その他

報告・議事内容

- 1) 2024年10月からの役員体制・役割分担
以下の役員体制とすることが承認された。
領域代表 長崎 百伸 (京都大学)
領域副代表 比村 治彦 (京都工芸繊維大学)
領域前代表 藤堂 泰 (核融合研)
運営委員 (徳澤, 松山, 安部, 岩田, 大石, 川面), 役員 (佐々木, 三瓶, 菊池)

2024年9月で任期終了の役員

- 役員 (領域運営委員) 藪内 俊毅 (高輝度光科学)
役員 (領域運営委員) 四竈 泰一 (京都大学)
役員 (領域運営委員) 斎藤 晴彦 (東京大学)

2025年10月からの次期役員候補 年内まで立候補待ち (領域代表まで連絡)

2025年春季大会運営会議で審議

2) 2025年4月からの領域代表、副代表の推薦

以下の推薦者について承認された。

領域代表 比村 治彦さん（京都工芸繊維大学）

領域副代表 江尻晶さん（東京大学）

10/21（月）までに推薦フォーム入力、11月の領域委員会で承認予定。

3) 2024年春季大会学生優秀発表賞に関する報告

応募者33名の中から、以下5名を選出。

○ 那須 達丈（総研大）

「LHDにおける電子スケール乱流の特性研究」

○ 高野 歩海（名大理）

「沿磁力線座標を導入したバルーニングモード乱流の簡約化 MHD シミュレーション」

○ 蔡 福瑞（京大エネ科）

「EMC3-EIRENE シミュレーション及び分光診断で明らかになったヘリオトロンJ境界層の多層磁場構造における不純物挙動」

○ 戸田 悠斗（総研大）

「時間依存密度汎関数理論を用いたタングステンに対する入射水素イオンの中性化過程解析」

○ 榊 剛志（名大理）

「双極子磁場中でのオーロラ構造の非局所的成長と非線形飽和過程」

4) 米沢富美子記念賞 授賞候補者の募集について

領域2の締切：2024年10月25日（金）

提出先：領域副代表 比村

5) 2025年春季大会シンポジウム等の提案

企画講演（0件提案）、シンポジウム（1件提案+領域11との合同1件提案）、招待講演（1件提案）、若手奨励賞受賞記念講演（1件提案）、運営会議で周知する。締め切り10/24（役員会へ）

提案者は、10/24（木）までに役員会へ案を提出する。

学会の公募受付は10月下旬～11月上旬。

企画セッション（0件提案）。

今後、11月末に案内を領域2メーリングリストへ配信し、募集受付して、春季大会の役員会・運営会議で審議する

招待講演（1 件提案）

- 剣持尚輝（核融合科学研究所） 「磁場閉じ込めプラズマにおける非局所輸送の物理機構に関する研究」
稲垣氏から紹介があった。特に問題なく、承認された。
招待講演は他の領域との合同で行うことが可能であるとの補足があった。

シンポジウム（1 件提案）

- 提案者 坂本隆一（核融合科学研究所）
「「プラズマサイエンス」—その学際的发展と豊かな未来社会のために」
藤澤氏から内容が説明された。同じ所属の発表者は登壇できないが「はじめに」の発表者は OK かという質問があった。これについて可否を確認する。
(運営会議後に菊池氏から「趣旨・総括については所属の重複があっても問題ない」と解釈される旨の連絡があった)
基本的に開催することが承認された。

若手奨励賞（1 件提案）。

最大 2 件提案が許容されており、現時点で 1 件が提案され審議中である。

6) 代議員候補者推薦

領域 2 から 4 名の代議員候補が提案された。

千徳先生（2 回目）、藤堂先生（2 回目）、比村先生（1 回目）、江尻先生（1 回目）

7) 領域委員会報告

1. 領域委員会（2024 年 5 月 24 日）

計算物理領域の試行について

各領域からの議論の報告がなされ、設立に向けたワーキンググループの設置については反対がないことが確認された。概要について説明があり、全領域を横断すること、当面は年次大会のみで開催することなどが挙げられた。講演数としては、既存領域の講演としてもカウントする。計算物理領域からは若手奨励賞は出さない。

2. 物理学会からのサポートレターの発出について

サポートレターの発出方針案、及び文案が提示された。

もう少し慎重に検討を続けるとのこと。

3. 概要原稿の英語化について

「日英 1 ページずつ」や「英語ページのみ 1 ページ」などの案が出ている。
インフォーマルミーティングで議題に上げ、まとめたものを 11 月予定の領域委員会で報告する。

(意見)

- ・ 全く読まれないのではないか。
- ・ 日本語でいいのではないか。あるいは自動翻訳のボタンを付けてもらえば？
- ・ 日本語英語を半ページずつで、合計 1 ページ
- ・ 英語あるいは日本語をつけるのをオプションにしてはどうか。
- ・ そもそも概要をもっと簡単に見られるようにしてほしい。
- ・ DOI が付くということはアクセスしやすくするのか
- ・ 2 ページはやめてほしい
- ・ DOI が付くと、その後フルペーパーを書くときに自己剽窃になってしまうのでは？
- ・ 領域 2 は外国人の参加者はそれほど多くない。
- ・ 発表資料が日本語では意味がないのではないか。
- ・ オンラインだとアジアの研究者が参加できるので、発表資料を英語にすることを意味があるのでは。
- ・ 日本にいる留学生に物理学会員になってほしいから実施しようとしているのが、議論がズレているのが問題である。
- ・ 高等教育が母国語でできるのが大事だ。
- ・ 日本語で正しい物理の文章を書くいい機会になっている。奪わないでほしい。
- ・ 日本語はちゃんと書いて、英語は簡素で良いのでは。
- ・ 概要集の目次とか関連するコンテンツも全部英語にしなくては意味がないのでは。

8) 領域 2 での確認事項

以下の事項について確認した。

- Plasma メーリングリストの運用
- 学生優秀発表賞
- シンポジウム、招待講演
- シンポジウム等での online 登壇

9) 講演件数の推移

110 件。ここ最近は微増傾向がある。

10) 講演概要集提出率

概要提出率は 108/110 (98.1%)
他領域と比較しても提出率が良い。

11) その他

○ NIFS 共同研究の改革について

NIFS の共同研究の新しい枠組みについて，比村氏から説明があった。

○ 懇親会

日時：9月17日（火）18:30～

会場：彩屋 札幌駅前店

以上